

麦の育成管理に全力投球



麦の畑を左右いっぱい腕を伸ばした管理機（写真上）が、ゆっくりと進んでいます。まるで飛行機が羽を広げて滑走路を走るようです。

いっぱい広がった腕にはいくつもの薬剤撒布装置が付いています。今回は肥料と麦の大敵の「赤カビ」を押さえ込むための消毒薬も一緒に撒布しています。

昨年は「西の香り」という品種の麦でしたが、今年は「瀬戸きらら」という品種に変更されました。収量も多く、育ちも良いとのこと。昨年は麦の刈り取りと、稲の植え付けが殆ど同時になり、コンバインと田植機と一緒に作業しているのを、田植え見学に来た上郷小学校2年生に見せることになりました。

刈り取りの後は、すぐに耕耘作業があります。乾燥した麦畑から、水田にあつという間に変換です。早朝から夜遅くまでのきつい作業となったようです。今年は麦穂の生育も良いようですので、そういう時間的な切迫はないかも知れません。

しかし、植え付け面積は昨年よりす

こし増えて11ヘクタール以上になっていきます。あまりきつい作業にならないければ良いがと関係者は気を揉んでいました。

麦の生産はこうした管理作業が常にあります。こういう労力の割には収益にならないとのこと。むしろ年々削減される補助金について、今後の見通しが難しい状況です。

高度な機器を導入

平成26年度の八方原の環境を守る会の事業として、農地管理者の方々には刈り払い機の替刃を配布進呈しました。これは「きめ細やかな雑草管理」



望遠レンズで対象物を捉える

という事業の推進のためのものです。年度末には各事業費の節約でひねり出した若干の余剰予算で必要な機器も購入できました。昨年の共同作業の中で水路の改修の際に、計画したとおり勾配がうまくできませんでした。事前の調査や、作業位置の高さを正確に把握するためには「レベラー」が欠かせません。高級なものではありませんが、本格的な「オートレベラー」を購入しました。

今後は圃場の高低などもかなり正確に把握できるようになります。



管理機に薬剤と水を補給する（4月24日）

八方原自治会の 新年度が始まる

4月12日、八方原自治会総会が開催

されました。平成26年度の事業報告と決算報告が行われました。収入については予算額より17,605円少ない、873,299円でした。支出は1,752,255円となっています。その結果121,044円が次期繰越金となりました。そのほか公民館活動費やふれあい盆踊りなども例年通りの状況でした。また特別会計の積立金は

変化はありません。

平成27年度の活動案は例年通りです。また予算案についても1,782,044円と例年並みとなっています。また公民館活動費についても昨年同様の予算案でした。いずれも原案の通り了承されました。

各部からの連絡では衛生部からゴミ出しのルールについての確認があり「不燃物は燃えるゴミの袋を使用しないこと」「発泡スチロールは粉砕して燃えるゴミで出すこと」「ペットボトルは袋から出して専用ネットに入れること」などの説明がありました。

そのほか防災用の土嚢についての意見も出されました。

「泥上げ」作業に協力を

農地の管理に欠かせないのが、水路の管理です。水田からの落水路の「泥上げ」と排水路の「水路清掃」です。

「泥上げ」については従来から農業関係者が行ってきましたが、多面的な支払交付金事業の対象となることから、一般地区住民の参加も頂いています。共同作業ですので、参観人数が多いほど、個人の作業負担は軽減されます。5月10日の朝8時から作業が行われ、当日の参加も可能です。



昨年の「泥上げ」作業のミーティング

草刈り作業は終わりなし



暑い時期の草刈りは非常に厳しい労働

水路周辺のあぜ道の草刈りが始まりました。冬の間に伸びてきた雑草は暖かくなると一気に伸びてきます。農地管理の最大の仕事は「雑草管理」といえるかも知れません。

当会では年3回の草刈りが行われることを基本に重要な事業としています。刈った草が水路に落ちないようにまた圃場にも入らないように、慎重に作業を進めます。

また本年から従来農業関係者に任せられていた農業用揚水ポンプからの送水管周辺の草刈りを当会の独自事業として行うように計画しています。

北の大地の農業を垣間見た

北海道の農業は広大な土地を利用して大規模なものが多く見られます。今では米の生産も大変盛んになってきました。4月中旬、個人的に北海道の東部を巡るツアーに参加してきました。雪あり氷ありの寒さもありましたが、北海道らしい畑作も垣間見えました。

写真はなだらかな丘陵地です。芝生でも生えているように見えますが、小麦だそうです。それも昨年の秋に播いたものです。これが8月に刈り取るようになるのです。「雪でしっかり押さえ込んだから踏む必要は無い」とのこと。雨が降らない限りは水分はありません。本州の西の端とはずいぶん事情が違います。

書記 原田茂樹



写真の奥に見える丘陵も、同じように麦畑